

アイデア商品「傘ぽん」で特許を取得 豊かな発想で事業を広げる

事業内容

計量器、温度計、気象用計器、健康器具などの販売を手掛ける専門商社。傘袋自動装着器「傘ぽん」の開発に携わり、特許、商標の知的財産権を取得。濡れた傘を差し込むだけで袋に収納できる「傘ぽん」は、そのまま屋内に持ち込まれることで派生しうる床の汚れや、雨水による転倒事故防止にも役立つとあって、ビル、商業施設、イベント会場など、国内外の多数の施設に導入されている。

特許登録番号と内容

特許第 2562806 号	傘の袋収納装置（株式会社村春製作所との共同出願）
特許第 2681871 号	傘の袋収納装置およびそれに用いる傘収納袋（株式会社村春製作所との共同出願）
特許第 3923015 号	傘収納用袋の製造装置及び製造方法
特許第 4023552 号	傘収納用袋
商標登録第 3196612 号	傘ぽん（株式会社村春製作所との共同出願）

他、商標登録6件(2012年3月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



相談役
新倉基成さん

軍需工場からはかりの商社へ 「新倉度量衡器販売所」が出发点

新倉計量器株式会社の前身は、零戦のキャブレターを製造する軍需工場。戦後、焼け残った土地に立ち上げたのが、はかりの販売店「新倉度量衡器販売所（旧社名）」だった。

「必要なくなった戦闘機材料であるジェラルミンを使ったはかりをメーカーが作り始め、進駐軍からの発注で、日本初のヘルスメーターの製造も始まった。それらの販売が私たちの商売の出发点でした」と、新倉基成相談役は語る。

現在でも、計量器の製造・販売・修理を行う事業者は、計量法の定めに従い、経済産業大臣または都道府県知事に届け出る必要がある。当時はその制度がさらに厳しく、免許を取るの是非常に難しかったという。半面、取ってしまえば、新規参入が難しい分野だけに、安定した商売につながる。おかげで同社も確固たる経営基盤を築くことができ、今に至るまで、はかりの販売は、同社を支える事業の柱となっている。

しかし、時代の移り変わりとともに、海外から廉価な商品が入ってくるようになり、100円ショップでも家庭用のはかりが売られるようになった。「計量器だけでやっていくのは厳しい」と、同社がビジネス領域を広げて

いく中で、偶然、出会ったのが、傘袋自動装着器「傘ぽん」の原型だった。

職人のアイデアに賛同し共同開発 改良を重ねた「傘ぽん」はヒット商品に

事の始まりは、精密板金加工などを行っている株式会社村春製作所から持ち込まれた「傘ぽん」の試作品。当時、引きちぎりタイプの傘袋はあったが、取りづらい、入れにくいなどの難点があった。「それらを解消したい」と、発明好きの職人が生み出した試作品は、袋が器具で開き、傘の先端をスムーズに入れられる画期的な製品だった。新倉相談役は、「面白い。商売になる」と直感。実用新案であったそのアイデアを買い取り、販売を引き受けることにした。操作音がうるさいなど問題点は改良させ、さらなるアイデアも出してもらい、共同で特許申請も進めた。現在、「傘ぽん」関連で取得している特許は、国内外で20に及ぶ。

「傘ぽん」の名称は、「語呂がよく、耳に残り、子供でも覚えられるものを」と、新倉相談役が考えた。スペイン語で、カーサは家、ポンは置く、という意味もあることから、海外でも「カサポン」のネーミングで販売。日本と世界各国で商標意匠登録済みだ。

初代の足踏みペダルタイプこそ苦戦を強いられた「傘ぽん」だったが、改良を重ね、傘を差し込むだけで袋

COMPANY DATA

所在地:東京都千代田区神田司町2-2 新倉ビル
電話番号:03-3254-0319 URL:http://www.niikura-scales.co.jp
創業:1945年12月 設立:1971年4月 資本金:1250万円
売上高:非公開 従業員数:17人



世界各国で商標意匠登録済み。雨の日には、多くの商業施設やホテル、イベント会場、学校や病院などのエントランスで、このマークを目にする



「傘ぽん」専用傘袋。初期の商品は水滴が溜まり、袋が抜け落ちてしまうことがあったために改良。袋の上部に付けた落下防止帯がポイントになっている

が開くタイプが登場すると、「スピーディーでお客の流れを止めない。場所を取らない。電気を使わない。濡れた傘の持ち込みによる汚れや転倒事故防止に繋がる」とあって大ヒット。瞬く間に世に広まっていった。

類似品が市場に蔓延するも 正当な権利主張で製造販売を差し止め

「傘ぽん」が市場に認知されるやいなや、類似品が20社以上から出て来た。中には、特許出願をしていた競合企業もあり、こちらの申請が一月遅かったら危なかったこともあった。いずれも警告を発し、相手方が、製造・販売を停止することで和解している。

もちろん、同社としても「傘ぽん」の価値を上げる努力を怠っていない。市場のニーズに応え、折りたたみ傘向けの新製品も発売した。また、「抜け落ちた傘袋が、店内に散らかるのは問題」との声に研究を重ね、商品

特許事例として旧通産省の教材にも登場 海外特許は国の特性に合わせて活用

「これほど素晴らしい特許はない」と弁理士にいわしめたほどの傘ぽん。旧通産省が制作した、「特許とは」と後進国に説く教材の中でも、本田技研工業、旧松下電器産業、日清食品らに並んで紹介された。海外では、米国、台湾、中国、韓国、EC6か国、シンガポ

濡れた傘を入れて引くだけで、手軽にカバーがかけられる「傘ぽん」。使う人にとっては、手も濡れずにラクに操作ができ、設置する側にとっては、雨水による商品やフロアの汚損防止、転倒事故防止につながるアイデア商品だ



を改良。現在の傘袋には、傘に引っかかるよう工夫された、細い落下防止帯が付いている。この傘袋でも特許を取得。事業をいっそう強固なものにした。

「袋が簡単に開く技術というのは、じつは応用範囲が広い。たとえば、ファーストフード店のドライブスルーのバックヤードで、砂糖やマドラーなどを次々と入れる装置にも採用されている。まだまだ可能性は広がります」。

そう語る新倉相談役の発明は、「傘ぽん」だけではない。痰のつまりから脈拍の変化を察知し、健康状態を管理できるセンサーや、乾電池の+と-のどちらの向きでも使える電池収納装置を開発。それぞれ特許を取得し、商品化に向けて検討中だ。「発明には、発想も努力も必要ですが、ツキも大切ですよ」。傘ぽんのアイデアを見逃さなかった新倉相談役ならではの言葉だ。

知的財産活用のポイント

ル、香港にて特許取得済み。しかし維持管理が難しく、費用もかかるため、手放した海外特許もある。特許権侵害に関しても、監視し続けるには限界があり、たとえば、中国で次々と出てくる類似品には全て対処することは不可能、諦めている部分もある。「ただ、米国などは訴訟大国でもあり、もしものときには、正当な権利を主張できるように、特許を取得・維持することで、備えをしています」。